

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500032		
法人名	サンキ・ウエルビ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビグループホーム周南		
所在地	山口県周南市遠石1丁目10-57		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたGH周南では、数々の交流をしながら毎年夏祭りや草取り等の地域の行事に積極的に参加している。近隣の幼稚園との交流は、昨年よりも増し、隔月で招いている。地域のボランティアによる騎兵隊の出し物や生花を使った花の教室や、習字のお稽古。みんなで参加する手打ちうどん等を開催し、利用者や家族にも大変喜ばれている。また、家族と共同の行事数々取り入れ楽しみを提供している。もっとも大きい行事のクリスマス会については、昼食やドルチェをバイキング方式で行い、普段食の細い利用者にも多く食べてもらえ、活き活きとした表情が見られたため、来年度も実施を計画している。合同レクも時間を長く実施し、2ユニットでの食事時間を設け、楽しく皆で過ごせるようスタッフ一丸となり支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害時における緊急連絡網の中に自治会長、民生委員、電気店、ビデオ店、コンビニなどの加入を得ておられ、事業所が実施される年2回の火災時避難訓練に近隣住民が参加して、利用者の誘導避難訓練に協力しておられるなど、地域との協力体制を築いておられます。3ヶ月に1回家族会を開催され、職員との意見交換、家族同士の意見交換など、家族から意見や要望を聞く機会のひとつとしておられます。車椅子対応の車を常備され、家族が利用者と一緒に外出、外食、受診をされる時に利用できるようにしておられ、家族から喜ばれています。地域の夏祭り、敬老会、学校の運動会などに参加されたり、ボランティアによる生け花や習字、うどんづくり、定期的な保育園児の来訪などで交流され、地域との関係作りに努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして事業所独自の理念を作成し、職員全員が周知し共有している。理念に沿ったサービスの実践を心がけている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事務所に掲示し、施設長と管理者、職員は毎月の全体会議で確認し、理念を共有して、実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の夏祭りに参加したり、学校の運動会等で交流を深めたりしている。また、地域の敬老会に家族と共に参加したり、草取りに職員が出かけたりしている。その他、生花、習字の講師を招いたり、うどん作りを楽しんだりしている。地域の保育園児を定期的に招いて利用者との交流を楽しんでいる。	自治会に加入し、地域の夏祭り、敬老会、学校の運動会に参加し、交流している。保育園児の定期的な来訪や、ボランティアによる生花、習字の先生による手本と添削、法人の他のグループホームの入居者との交流、近所の店での買物などの支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の施設見学を積極的に行い、認知症の家族の方の相談にのっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義は、職員全員が共通理解している。自己評価を全職員に記入してもらい、全体会議で話し合いをした上で作成した。その過程で課題が明確になり、改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解した上で、全員に評価表を配布し、記入してもらい、施設長、管理者、リーダーで取りまとめている。外部評価結果を全体会議で話し合い、応急手当やAEDの研修を受講するなど具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告、行事、活動報告、ひやりはつとの検討等の意見交換をしている。様々な提言を頂き、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、現状報告、行事報告、活動報告、ひやりハット、インフルエンザなどについて意見交換をしている。重度化についての意見があり、重度化した場合における(看取り)指針の同意書を交わすなど意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に情報交換や以遠を頂きながら、サービスの向上に努めている。また、市の担当者にも相談し助言を求めるなど、協力関係を築いている。	運営推進会議時に意見交換を行ったり、市担当課へ電話をして相談し、助言を得るなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてマニュアルがあり、毎年研修を実施している。全職員が身体拘束の弊害について理解しており、玄関の施錠をしないなどの拘束しないケアに取り組んでいる。	内部研修で身体拘束について学び玄関の施錠を含めて抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には一緒に散歩してみたり、寄り添いながらケアをするなど、玄関の開錠に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、毎年繰り返し研修を実施している。お互い注意し合い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学ぶ機会を設けている。個々の必要性については関係者と話し合い支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、十分な時間をとり、家族や本人の疑問に懇切丁寧に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、面接時に家族からの意見や要望を聞いている。また、介護相談員は利用者から話を聞いている。出された意見は運営に活かしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、周知している。運営推進会議、家族会、面会時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。年4回家族会を開催し、職員との意見交換、家族だけの意見交換を行っている。介護相談員が月1回利用者から話を聞いている。出た意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている全体会議や各フロアミーティングで意見を聞く機会を設け検討している。	施設長や管理者は毎月1回行っている全体会議やフロアミーティングで職員の提案や意見を聞く機会を設け、ケアについての意見で、対応の改善をするなど反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課制度を導入しており、適正な評価基準があるため各自が向上心を持って働けるシステムとなっている。また、労働組合もあり、労働者の権利が守られている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任研修、外部評価は勤務の一環として参加の機会を提供している。介護福祉士を受験する職員のために模擬試験を実施するなど、ステップアップのための支援をしている。	内部研修は毎月1回、全体会議の前に研修計画に沿って実施し、法人の講師による講話があるなど、働きながら技術や知識を身につけることができるように支援している。外部研修は情報を伝え、勤務の一環として参加の機会を提供している。資格取得のための模擬試験を実施するなどスキルアップに努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し協会主催の研修や勉強会に参加している。意見、情報交換を行いサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の不安、要望等について何う事により、今までの生活スタイルを変えないでなじみの生活が送れるよう支援するようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族より話を聞く機会を設け、なじみの関係を大切に暮らせるよう、なじみの美容院やお店を利用するなど、できる限り要望に沿うよう努力している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人、ケアマネジャー、主治医、訪問看護との連携をとり、必要な支援について話し合う機会を設けている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯たたみ、床掃除、食器洗い、野菜切り、ゴミすり、テーブル拭き等、職員と共に家事を行い、共に生活する仲間としての関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会して頂く事は勿論の事、面会時には、食事介助をして頂き、食事摂取状況の理解をして頂いている。また、行事の時は、家族も参加して頂き、共に楽しみながら、本人を支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、葬式や結婚式に出席したり、なじみの美容院の利用や病院の受診、外泊等の支援を行っている。また、友人や知人、身内の人の来訪、外食、買い物等なじみの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の協力を得て、法事や葬儀への出席、外食、買物、美容院などの支援の他、友人、知人の来訪があるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者とのレクリエーションを楽しんだり、共に外出したりする事で仲間意識が芽生えるよう支援している。一緒に家事をする事で家庭と同じ環境に近づけ楽しみながら生活をして頂くようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所になった方の所へ定期的にお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントを行い、本人、家族の意向、希望、生活歴等の把握を行い、生きがいを持って笑顔で生活して頂けるよう支援している。また、拒否のある時は無理強いせず、時間をあけたり声かけの仕方を変えたりして対応している。	入居時に本人、家族の希望、思い、生活歴等を詳しく聞き、記録して把握に努めている他、日々の行動、表情、言葉を記録して、本人の思いの把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントシートを参考に昔の話をする事で回想法により発語を促すよう努めている。入所後の経過は支援経過を遡って読み、カンファレンス、モニタリングを参考に現状と照らし合わせるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とコミュニケーションを随時とり、本人の心身の状態、現状把握ができるよう努めており、全職員に情報共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロアミーティングで話し合い、方向性を決め、月1回のモニタリング、3ヶ月に1回のカンファレンスを実施し家族、本人、主治医、職員の意見を反映し現状の即した介護計画を作成している。	本人や家族の意見や要望、主治医の意見などを参考に3ヶ月ごとのカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。月1回、各フロアミーティングで話し合い、モニタリングを実施し、期間に応じた見直しや状態の変化に合わせた見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、経過記録に細かな事も記載し、情報の共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活歴に即したニーズや希望要望を個別に取り組み、柔軟な発想や対応を行い利用者、家族に満足して頂けるサービス提供を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、介護相談員、学校、保育園、地域の店等と協働している。また、地域の行事には積極的に参加し楽しんで頂ける様支援している。ボランティアにも多く来て頂き活気ある生活を送って頂けるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医へ受診している。主治医へは必要に応じて利用者の状態を報告し連携している。定期受診は家族が送迎を行っているが、急な疾患の時は、職員が対応している。	本人、家族が希望するかかりつけ医の定期受診を家族の協力を得て支援する他、急変時には職員が受診支援を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し週2回の訪問により利用者の状態把握、処置等行っている。日々の情報や気づきを訪問看護に伝え、適切な指示指導を頂いている。また、急変時は、随時電話での相談を行っており、適切な受診、救急対応が出来るよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の状態、日頃の生活について医療機関へ情報提供し入院生活が円滑に出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応指針を入居時に家族に説明し、家族の希望に応じた対応が出来るよう配慮している。	重度化した場合における(看取り)指針を入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、契約を交わし同意書もらっている他、家族や主治医、関係者で話し合い、看護師と連携をとり、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルがあり実践に即した研修を実施している。又ひやりはつと事故報告書に記入し、検討会を行い全職員に周知する事で再発防止を図っている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、検討会議で事故対策を話し合っている。日々の申し送り時に一人ひとりへの対応を確認し、事故防止に取り組んでいる。消防署員による救急救命講習を全職員と利用者も参加して受講し、応急手当の訓練を行い実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施している。訓練には民生委員や近隣住民数名が参加している。緊急時連絡網の中に自治会長、民生委員、電気店、ビデオ店、コンビニが入っており地域との協力体制を築いている。	年2回火災避難訓練を実施している。避難訓練の参加、協力のちらしを近所に配布し、民生委員や近隣住民の協力を得て、1、2階の利用者全員を誘導する避難訓練を行っている。地域との緊急連絡網を作成し、協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルがあり接遇研修を実施している。利用者に対して敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしない事を徹底している。個人記録等は取り扱いに注意して保管している。	人格の尊重、プライバシーの確保についての内部研修で職員は理解しており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員間の会話も思いやりのある言葉使いに気を付けている。気になる言葉かけに気づいた時は施設長や管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で本人の思いや希望が表出出来るよう配慮している。又パンバイキング、セブンイレブンにて昼食の選択が出来るよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態を把握し本人の希望やペースを大切にしてい穏やかに楽しく過ごせるよう支援している。特に朝ゆっくり寝ていたい方や、夜遅くまでテレビを観ていたい方には起床・就寝時間など配慮している。又行事への参加も無理強いせず希望を優先させている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は上着や帽子を選択して頂くなど、その人らしく過ごせる配慮をしている。又今までの生活暦や気分によりスカートをはいたり、化粧をしたりして楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当2名確保し季節の食材を使用して三食共事業所で調理している。又家族共に外食会をしたり、行事の時にバイキングを実施したりして、楽しく食事が出来るよう配慮している。利用者はごますり・餃子作り・ホットケーキ作りなどを職員と共にやっている。	調理担当の職員を2名確保し、1名は栄養士で栄養バランスにも考慮した献立で、利用者の好みや状態に合わせて三食とも事業所で作っている。利用者はごますり、片付け、テーブル拭きなど出来ることを一緒にしている。利用者と職員は同じ物を、一緒に食べ、楽しく会話しながら食事をしている。バイキング、外食、お弁当、ケーキ選びなど様々な楽しみごとを採り入れている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調を考慮しながら栄養士がカロリー計算をして献立を作成している。又本人の状態によって量や形態を工夫している。水分摂取量・尿・便の記入をする事により脱水等の防止にも気を付けている。嫌いな物や食べてはいけない物がある時は、代替献立を調理するよう一人一人に応じた食事が提供できるよう配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、それに伴う病気の防止やいつまでもおいしく食事を摂って頂く為の口腔機能維持向上に努めている。なるべく自力で行って頂き、できない所を支援するよう心がけている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで、利用者1人1人の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導にてトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導で出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の悪影響については、研修等実施する事により全職員が十分な理解をしている。利用者に十分な水分補給を行ったり、植物繊維の多い食材を使用している。また、毎日体操したり散歩したりするなどして便秘防止を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は利用者1人1人の体調にあわせ、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる場合には、無理強いしないで職員を変えたり、タイミングや時間、声かけなどを工夫して支援している。	毎日15時から入浴時間とし、声かけやタイミングに気を配りながら、1日3～4名がゆっくり入浴を楽しめるように支援をしている。清拭やシャワー浴、足浴など状態に応じて対応している。入浴したくない人には、無理強いしないで、声かけやタイミングに工夫して支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を尊重しなじみの寝具、ベッドを使用したり、なじみの家具を身近に置く事により安心して休息、気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬一覧表にて服薬内容の把握、用法、容量について理解している。薬局、主治医との連携を図り、粉碎、一包化など協力を得ている。また、服薬拒否などの対応のため、ゼリー、ジャム等を使用し工夫している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、習字、塗り絵、毎月のカレンダー作り、カラオケ、言葉遊び、オセロ、カルタ、トランプ、風船バレー、サッカー、百人一首、キーボード演奏、音楽療法、餃子やホットケーキなどのおやつ作り、年1回のバイキング、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、食器洗いなどの楽しみ事や活躍できる場面を作り、利用者1人1人が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、食器洗い、編み物やぬり絵、毎月のカレンダー作り、カラオケ、言葉遊び、キーボード演奏、歌、オセロ、カルタ、トランプ、生花など楽しみごとや活躍できる場面をつくり支援してる。習字の先生の手本を見て書いた習字を先生に添削してもらい、利用者の張り合いになっている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社や公園への散歩、買い物、夕食やドライブ等その日の希望や状況に応じて戸外に出かけられるよう支援している。家族との外出や夕食など協力しながら利用者の希望や要望にこたえられるよう努めている。	近くの神社への初詣や公園への散歩、コンビニでのおやつや買物、動物園へ行ったり、夕食やドライブ、花火大会見物、花見など外出の機会を多く設け、家族の協力を得ながら出かける支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に買い物に行き、自分で選び楽しみながら好きなものを選択する喜びを提供している。また、各自で支払いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が支援をして自ら電話ができるよう配慮している。また、家族から電話をして頂き、家族と話ができるよう支援している。県外の親類や友人等と年賀状やパースディカード、はがきのやり取りをしている利用者もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の採光、換気、室温を管理しつつ、七夕の笹飾り、クリスマスのツリー飾り、門松など季節の風物詩を飾る事により季節感を味わえるよう工夫している。また、毎月のカレンダーを利用者と共に作成する事により季節の移り変わりを感じて頂いている。	共用空間は広く、明るく、温度、湿度、換気に配慮している。対面型の台所で調理の様子が見えたり、片付けを一緒にするなど、生活感がある。テレビ、ソファなどがあり、ゆっくりくつろぐことが出来る。フロアーに季節の飾り物や唱歌を貼ったり、毎月のカレンダーを手作りして季節感を出している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は開放しており、自分の好きな所で思い思いに過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していたなじみの家具を持参して頂いており、子供や孫の写真、生け花などを飾って居心地よく過ごせるよう環境作りに配慮している。中には、たたみを敷いている利用者もいる。	馴染みの整理ダンスやテレビ、円形テーブル、椅子など好みのものを活かして利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。畳を敷いた居室もあり、壁面には自作品を飾ったり、ボードに家族の写真を飾って、本人が安心して過ごせるような居室づくりの工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じた家事を職員と共に行ったり、レクリエーションを行ったりすることにより本人の能力の維持を図るようにしている。		